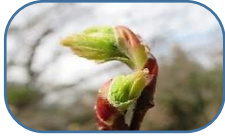


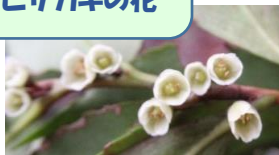
～ 芽吹きが聞こえます 花のにおいが流れます ことしの春を迎えよう ～



春は張る 根が張る 芽が張る 空が晴る
雑木林の春の色 春の匂いに 包まれて

今月の訪問先(予定)										コース順
No	標準和名	漢字表記	科	樹	葉	冬芽	葉痕形	メモ		
1	ヌルデ	白膠木	ウルシ	落		鱗	黄褐毛	U字	仮頂芽 花序残る	
2	アオギリ	青桐	アオギリ	落		鱗	半球 球	托葉痕	ピロードの毛	
3	ハリエンジュ	針槐	マメ	落		隠芽			棘→悪魔の顔	
4	イボタノキ	水蠟樹	モクセイ	半	対				2月イボタ蠟	
5	コナラ	小檜	ブナ	落		鱗	無毛 断面5角	半円	頂生側芽	
6	ムラサキシキブ	紫式部	シソ	落	対	裸	粉状短毛	半円小	対生	
7	アラカシ	粗榧	ブナ	常		鱗				
8	モチノキ	繭の木	モチノキ	常					花芽は前年枝短枝	
9	ヤマザクラ	山桜	バラ	落		鱗	無毛	半円	芽鱗先:ほどける	
10	クスノキ	樟	クスノキ	常		鱗	淡赤褐		紅葉→落葉	
11	コバノガマズミ	小葉莢蒾	レブクウ	落	対	鱗	赤星状毛	V字	対生	
12	ツクハネツギ	衝羽根空木		落	対					
13	エゴノキ	えごの木	エゴノキ	落		裸	褐星状毛	半円	複葉=必ず予備芽アリ	
14	ヒサカキ	姫榊	サカキ	常		裸	鉤状曲る			
15	ミツバアケビ	三葉木通	アケビ	落						
16	カマツカ	鎌柄	バラ	落		鱗				
17	アズキナシ	小豆梨	バラ	落		鱗	水滴形	浅いV 隆起	皮目:秤の目 短枝	
18	タカノツメ	鷹の爪	ウコギ	落		鱗	無毛	V字	短枝:曲がる	
19	シイ	椎	ブナ	常		鱗				
20	カナメモチ	要繭	バラ	常		鱗				
21	ヤマコウバシ	山香ばし	クスノキ	落		鱗	赤味	半円	混芽 葉:残る	
22	タブノキ	榊の木	クスノキ	常		鱗	赤味 大		大きな葉芽	
23	ザイフリボク	采振木	バラ	落		鱗	細長水滴型	三日月 隆起	赤艶+白い毛 襟巻	
24	イソノキ	磯の木	クロウメモドキ	落	コクサキ	裸				
25	ウスノキ	臼の木	ツツジ	落		鱗	少毛	三日月	赤&緑	
26	ネジキ	捻木	ツツジ	落		鱗	赤艶	半円	三大美芽	
27	ズミ	酢実	バラ	落		鱗	暗赤 水滴型	半円~浅いV	短枝発達	
28	ヤマハギ	山萩	マメ	落					「芽の木」	
29	イザンショウ	犬山椒	ミカン	落		鱗	無毛	ハート	鋭い棘	
30	ヤマウルシ	山漆	ウルシ	落		裸	赤茶毛密	大ハート	維管束痕:V状 大	
31	ヤマハゼ	山櫨	ウルシ	落		裸	赤茶毛密	大ハート	頂芽先端:毛立	
32	ハゼノキ	櫨の木	ウルシ	落		鱗	無毛	大ハート	枝:無毛	
33	コバミツハツツジ	小葉三葉躑躅	ツツジ	落		鱗	伏毛密生	三角	3輪生	
34	ヤマツツジ	山躑躅	ツツジ	半		鱗			花	
35	リョウブ	令法	リョウブ	落		鱗→裸		三角 3裂	陣笠	

スケッチしよう
ヒサカキの花



雄花



雌花



両性花

冬芽葉痕コンテスト投票結果 2019.2.10														参加者22人			
順位	種名	漢字表記	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	合計	人数
1	ウスノキ	臼の木	2.0	1.0	1.0	5.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	20.5	13
2	ネジキ	捻木	1.0	1.0	1.0	1.0	4.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0				13.0	10
3	ザイフリボク	采振木	2.0	3.0	1.0	2.0	1.0	1.0								10.0	6
4	ヤマコウバシ	山香ばし	1.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0							9.0	7
5	タカノツメ	鷹の爪	1.0	3.0	1.0	1.0	0.5	1.0								7.5	6
6	コナラ	小檜	1.0	3.0	2.0	1.0										7.0	4
7	リョウブ	令法	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0									6.0	5
8	アオギリ	青桐	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0									5.0	5
9	ハリエンジュ	針槐	1.0	2.0	1.0	1.0										5.0	4
10	コバノガマズミ	小葉莢蒾	1.0	1.0	1.0	1.0										4.0	4
11	カナメモチ	要繭	1.0	1.0	1.0											3.0	3
12	ヌルデ	白膠木	1.0	2.0												3.0	2
13	アズキナシ	小豆梨	1.0	1.0												2.0	2
13	タブノキ	榊	1.0	1.0	1.0											2.0	1
15	サルトリイバラ	猿捕茨	2.0													2.0	1
16	アカメガシワ	赤芽柏	1.0													1.0	1
16	カクレミノ	隠れ蓑	1.0													1.0	1
16	クス	葛	1.0													1.0	1
16	シイ	椎	1.0													1.0	1
16	ハゼノキ	櫨	1.0													1.0	1
16	ムラサキシキブ	紫式部	1.0													1.0	1
22	シャシャンボ	小小坊	0.5													0.5	1
22	ナツハゼ	夏櫨	0.5													0.5	1
106.0																81	



ウスノキ

日一日と変わる 葉芽・花芽の展開
種によって異なる 芽吹きの色合い
野鳥たちの囀りにぎやか 時は仲春



ウスノキ3.7



ザイフリボク 3.7

「生物多様性のための里山管理」を考える

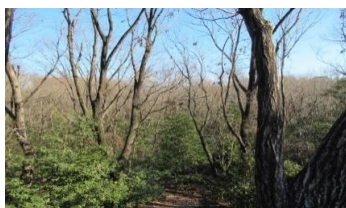


四季折々の美しさを見せる、相生山緑地コナラ・アベマキの雑木林。「この景観を永遠に」と願う人の気持ちが分からないではありません。

しかし、この二次林は人が農用林として、燃料供給林として利用し、その後利用されなくなってから、自然の遷移のまま放置されたがゆえに成立したもの。シイ・カシの暖帯性の樹林へと、しだいに移行が進んでいます。



「それは嫌だ、好みではない」「生物多様性のために整備しなくっちゃ」、名古屋市などでは樹林を伐採し「健全な森づくり」を進めています。けれども、「健全」かどうかは誰が決めるの？結局人間の判断ではないですか。



自然は自然のままに、いのちを育み、森林も在るがままに成立しています。農業生産の形がかつてのようではなくなった今、形だけの「里山」を望むのは、自然を大事にすることではなく、人間の欲でしかないのではないのでしょうか。

百歩譲って「生物多様性のために」というなら、人間が自然に対して どう対処してきたか、どんな仕打ちをしているか、そここのところを見直さずに、たかだか—相生山なら123.7ha—を整備するというのは、おかしいことだと思います。

「経済性」「開発」の名のもとに、宅地や道路のために山地を切り開き自然を破壊したのは、人間。



いのちを奪い絶滅させ、大量の「絶滅危惧種」をつくり出したのは、人間。そうしたことを省みず、いまだに進めながら、その一方で「自然保護」「生物多様性」「環境保全」を語る、まったく矛盾していませんか？

人間が何もしない方が、自然は「健全に」存在できる。

自然は暴風雨や地殻変動や河川の氾濫や火山活動や、によってダイナミックにニッチの転換を繰り返し、そのなかで、いきもの入れ換わり、多様性がすすみ維持されてきたと言えます。



ほんとうに「生物多様性」を大事にしたいなら、まず最初に「開発」を抑制することを考え実行しなくては。また、この国の山地に広がった画一的な人工林に手を入れなくては。着手することは他にないか、想っていただきたいものです。

本質に至らない、「何か役割を果したい」善意を引き回すだけに終わっている、「生物多様性のための里山整備」は理解することが出来ません。みなさんは どうお考えになるでしょう。



ブログ：相生山からのメッセージより

春の山に遊ぼう



シイタケ植菌に挑戦

ラブリーアースの山林

岐阜県七宗町

3/16(土)17(日)23(土)

24(日)のいずれか

参加費無料 数名先着順

集合 R.41道の駅「ロックガーデンひちそう」

または JR高山線/上麻生駅

詳細は右記 →

次回 4月14日(日) 9:30

～晩春の雑木林 花から花へ～

お天気よければ 午後も歩きましょう

連絡先(古川)

tell/fax : 052-821-6463

ケイタイ : 080-5124-6463

e-mail : viva_forest@yahoo.co.jp

ホームページ : ラブリーアース → 検索